

特集 1

外国につながる子どもたちの進路保障—小中学校の支援を経て高校、大学へ

（上智大学グローバル・コンサーン研究所／JSPS「課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業 実社会対応プログラム」共催シンポジウム記録）

報告2 大阪府立高校の枠校の取り組みから見えてきた成果と課題

森山玲子

こんばんは、大阪府立長吉高校から参りました森山と申します。私は枠校の1つの長吉高校に17年間勤めております。与えられたテーマは、「大阪府立高校の枠校の取り組みから見えてきた成果と課題」ですが、枠校全体といつても分かりませんので、長吉高校での取り組みを中心に、お話をさせていただきます。

さっそくですが、大阪府で枠校というのは、「日本語指導が必要な帰国生徒、外国人生徒入学者選抜」のことです。

図3-1 大阪府立高校の「枠校」について

「日本語指導が必要な帰国生徒・ 外国人生徒入学者選抜」

学 校

2001年～長吉高校〔総合学科（エンパワメントスクール）〕

門真なみはや高校〔総合学科〕

2002年～八尾北高校〔総合学科〕

2003年～成美高校〔総合学科〕

2005年～布施北高校〔総合学科（エンパワメントスクール）〕

2016年～福井高校〔総合学科〕

2017年～東淀川高校〔普通科〕

図3-2 大阪府立高校の「枠校」入試について

人 数：大阪府教育庁が指定する人数

対象者：中国から帰国した者または外国籍を有する者で、
原則として、小学校第4学年以上の学年に編入した者

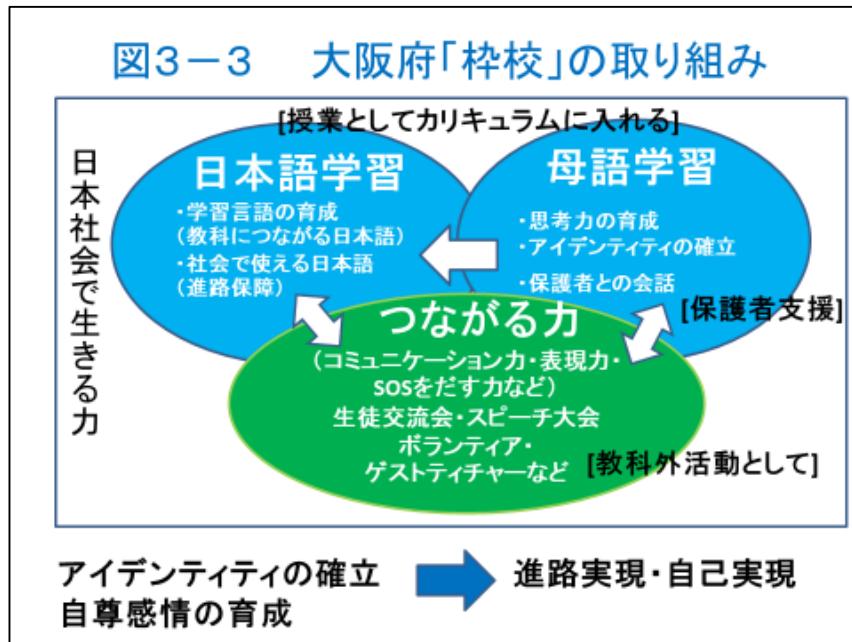
検査：「数学」「英語」の学力検査と「作文」
※作文は日本語以外の使用が認められる

- 各教科の学力検査において、ルビをつけた学力検査問題を配付する
- 作文の題意の理解を支援するため、キーワードとなる語について、受験者が希望する外国語を併記する
- 受験者が希望する英語以外の外国語の辞書の持ち込みを2冊まで可能とする

図3-1にあるように、現在7校ありますが、長吉高校は2001年より、枠校として、帰国・渡日生をサポートしております。長吉高校がどのような高校であるかは、今年の6月にちょうど文科省から学校の紹介をホームページにアップしていただいておりますので、ここでは割愛させていただきます。後ほどゆっくりご覧ください¹。私の実感で申しますと「しんどい思いをしている子どもたちとしっかりと向き合って、日々格闘している」そんな高校です。そのしんどい思いをしている子どもの中に、かつて、今もそうですが、中国からの帰国生徒やアジアからの渡日生がいたので、2001年に教員の側から要望し、枠校になったと聞いております。

次に、大阪府の枠校入試の特徴についてお話しします。一つ目は、入試の作文で日本語以外の言語、つまり生徒さんにとっての母語や継承語で書くことが認められるということです（図3-2参照）。私はこの入試を考えた方、決断された方は本当にすごいなと思っています。そしてもう一つは、中学校での成績は一切関係なく、数学と英語の学力検査（ルビうちはありますが他の生徒と同じ日本語で作成された問題です。）のみを課していることです。入試の時点での日本語力は問いません。ですから、各校の取り組みも、「母語」を大切にするという理念に基づいて行われています。

¹ 学び続ける高校プラットフォーム・みらいの職員室「単位制から学年制への大きな転換。常に生徒と向き合い続ける高校の奮闘・大阪府立長吉高校」（https://mirashoku.mext.go.jp/activities/post_008.html）



次に、大阪府枠校での取り組みについて説明します。この図は枠校7校のエッセンスを私なりにまとめたものです。高校3年間の目標は、「日本社会で生きる力」、「自立する力」をつけることだと思います。（図3-3参照）。

そのために、授業としては、「日本語学習」と「母語学習」をカリキュラムに取り入れています。ちなみに長吉では、3年間で最大6時間母語の学習を選択できます。日本語科目も3年間で10時間ほど学べるようになっています。しかし、枠校になった当初からこのようにカリキュラムが整っていたわけではなく、試行錯誤の中で、生徒たちが頑張って成果を出してくれたこともあります。また、大阪府教育庁からの支援もあり、このような支援体制を獲得できたのです。長吉高校を例にとりますと、枠校ができた1期生の時は予算も人材も確保できず、中国語のネイティブの常勤講師の先生お一人と、ブラジルのサポートの方のお2人でした。しかも、授業の中での母語学習は難しく、放課後のクラブ活動の中で、おこなっていました。すると、母語支援者のいない、タイとかフィリピンの生徒が学校を辞めていくんです。文科省の方が先ほど中退率が高いと報告されていましたが、その状況はよくわかります。何とか中退する生徒を減らそうと必死で取り組みました。各言語の母語学習が不安定ながらもできるようになったのは5年目、5期生くらいからです。ちょうどその時に初めて、フィリピンルーツの生徒が高校を卒業できるようになったと記憶しております。

もう一つ、大阪府枠校の大きな特徴は、「つながる力」の育成です。「大阪府立学校在日外国人教育研究会」、「府立外教」と呼ばれる教員の研究団体がありまして、その会が主催し、同じルーツを持つ生徒が出会える場としての「交流会」や、母語や継承語によるスピーチ大会を開催しており、それらの活動を通して、他校の生徒ともつながる機会がたくさんあります。

んあることです。枠校以外の高校に在籍し1人でさみしい思いをしている生徒も行事に参加することで、仲間とつながることができます。またその場で教職員もつながることができるので、他府県で枠校はできたけれども、枠校間でも情報共有がうまくできないというお話を聞きしたことがあります、大阪府枠校では、教員同士も、母語学習や日本語支援についてまた入試情報などの情報を共有する機会があることが強みです。

枠校7校それぞれ、特色はありますが、「自分の言葉や文化に自信をもち、違っていることを受け入れた上で、日本社会で生きていくための言葉やつながる力を育成する」という考えは共通していると思います。

次に、成果の方に行かせていただきます。図3-4では3点あげましたが、一番大きな成果は、卒業生です。枠ができたおかげで、外国につながる子どもたちが、まず入学できる、そして卒業できるようになった。さらに、進学または就職して日本社会で自立して社会に貢献している。そういう卒業生こそが長吉の誇りです。そしてこの卒業生たちは、ルーツを持つ、もっと小さな小・中学生のロールモデルにもなっています。

図3-4 大阪府「枠校」の成果

- ① 進路保障 →多くの生徒が卒業し、自己実現
 - ・卒業→進学・就職→日本社会で自立、日本社会に貢献
 - ・小・中学生のロールモデルとなる
- ② ネットワークの形成 →ひとりぼっちにならない
 - ・卒業後も、生徒同士が、日本社会の中で同じルーツ、または、ルーツをこえてつながっている
 - ・信頼できる日本人、日本社会とつながっている
- ③ 多文化共生社会の広まり
 - ちがいを豊かさにできる社会へ
 - ・「枠」以外で入学したルーツをもつ生徒（“ハーフ”や日本生まれの生徒たち等）も共に活動
 - ・教員、日本人生徒や保護者の気づきや学び

図3-5 長吉高校の卒業生(18年間)

- ・「枠」(転入学・二次や秋入試での配慮生徒含む)
卒業生 215人
(卒業率:単位制85%、エンパワ96%)

- ・「枠」に係らず、日本語や母語等の支援を受けた
卒業生 268人
(卒業率:単位制83%、90%)

大阪府では、枠入学の生徒だけでなく、いきなり海外から転校してくる生徒も「編入生」として、全く日本語が話せなくても高校に受け入れています。長吉高校では二次募集や秋入試を実施していた時期もあり、9月から日本語が全く話せない入学生も入ってきていました。募集定員の5~6%に加え、なんらかの配慮や枠を使って入った生徒のうち、本校を卒業した生徒は、215人でした。先程の報告では、高校に入学しても3割が退学し、卒業するのが約7割とおっしゃっていましたが、本校の卒業率は大きく上回っていると思います（図3-5参照）。

また、長吉高校では、枠で入った生徒だけでなく、枠外で入学した生徒にも必要があれば日本語も母語や継承語も支援しています。例えば、今、2年生のブラジルの生徒さんで、日本生まれ日本育ちですが、ずっと家庭ではポルトガル語、そしてブラジル人コミュニティで育ったので、話は日本語でできても、日本語の読み書きが十分でない生徒さんがいます。その生徒さんは枠で入学した生徒たちといっしょに、読み書きを中心に、日本語の授業を受けております。また、日本生まれ日本育ちで家庭での共通語は日本語というフィリピンにルーツを持っている生徒さんも、継承語として「ネイティブ・フィリピノ語」を選択することができ、2年生では4人の日本生まれの生徒さんが枠で入った生徒と一緒にフィリピノ語の授業を受けています。このように、枠のあるなしにかかわらず、必要な日本語や母語の支援を受けて卒業した生徒が、この18年かで268人いました。卒業率を比べてみると、枠以外で入学した生徒を含む方が低いですね。ということは、枠はすごく大事なのですが、そこにも属さない、幼い時に日本に来たとか、日本育ちである生徒さんの方が、本校だけの特徴かもしれません、現場での経験からすると、問題が見えにくい分、指導も難しいです。

図3-5 卒業後の進路 ～長吉高校の場合～

長吉高校の卒業生

- ・「枠」（編転入学・二次、秋入試の配慮生徒含む）
卒業生 215人（卒業率：86%）
- ・「枠」に係らず、日本語や母語等の支援を受けた
卒業生 268人（卒業率：84%）

図3-6 2003～2018年 長吉高校ルーツ卒業生徒 ルーツ別

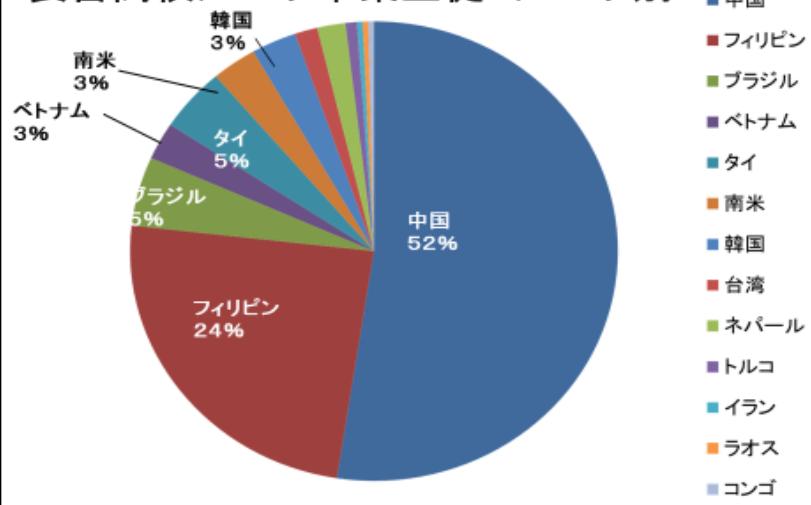


図3-6は、長吉の卒業生のルーツ別です。2001年当初は、帰国者を中心に、中国の生徒さんが多かったのですが、どんどん多言語化していきました。順番は上から入学者の多い順です。円グラフは卒業者ですので、順番からいくとベトナムの方が入学者が多いのですが、タイやブラジルの方が卒業生の数は多いです。

図3-7長吉高校ルーツ生徒の進路先1

・ 2003年度卒業～2018年度卒業(16年間) 進路先
 《国公立大》

◆筑波大

情報工学大学院→大学院
 比較文化
 人文科学日本語

◆三重大 工学部→大学院

◆山口大 工学部→大学院

◆和歌山大 観光学部

◆大阪府立女子大 人間教育

◆神戸市立外国語大学 国際関係学

図3-8 長吉高校ルーツ生徒の進路先2

《私立大四年生》

- ◆同志社 商学部、グローバルコミュニケーションなど
- ◆関西大 総合情報、工学部
- ◆立命館大 文学部、法学部など
- ◆甲南 理工学
- ◆龍谷 経済
- ◆摂南大 國際
- ◆関西外大 外国語学部
- ◆京都外大 英語
- ◆桃山学院 経済、国際
- ◆阪南大 経営、観光
- ◆ノートルダム女子大
- ◆大阪女学院 英語
- ◆大阪商大
- ◆大阪産大
- ◆大阪国際 授業料全額免除3
- ◆ブル学院 授業料全額免除1
- ◆大手前大 授業料全額減免特待生5
- ◆甲南女子大 ◆大阪電気通信大
- ◆大阪学院大 ◆大阪羽衣大
- ◆京都橘大 ◆京都精華大
- ◆姫路獨協大 ◆神戸国際大

《私立短大》

- ◆大阪女学院短大 特待生1
- ◆ブル短大 ◆キリスト教短大
- ◆大阪成蹊短大 ◆大阪国際大短大
- ◆大阪大谷短 ◆大阪学院短大
- ◆関西外短大 ◆大阪産大短大
- ◆大阪芸短大 ◆産業技術短

《海外大学》

- ◆北京大 ◆復旦大
- ◆廈門大 ◆中国医科学院
- ◆フィリピンの大学 ◆上海貿易大
- ◆ブラジルの大学 ◆トルコの大学
- ◆オーストリア留学

続いて、卒業した生徒の進路先です。（図3-7、図3-8）特に、進路保障は、日本での経済的自立に直結するので、母語と日本語を生かして、進学できるよう指導に力をいれてきました。16年間で国公立へ8名、難関私立とよばれる4大へも13人、それ以外にも多くの生徒が進学しています。図3-8に授業料全額減免とあります。これは何かというと、フィリピンの生徒さんは英語ができるので、有名な関西の私立の大学に合格してしまうのですが、続かなくて辞めてしまう。理由はいろいろですが特にお金が続かない。そこで考えたのが面倒見のいい、授業料を全額減免してくれる特待生制度のある学校に進学する方法

です。その中の一人は先ほど文科省の方のお話にもあった夜間中学を卒業して本校に入学してきたフィリピンの生徒さんで、授業料全額減免で大学卒業して、現在はまだ常勤講師ですけども、府立高校の英語講師として後輩たちの指導にもあたっています。

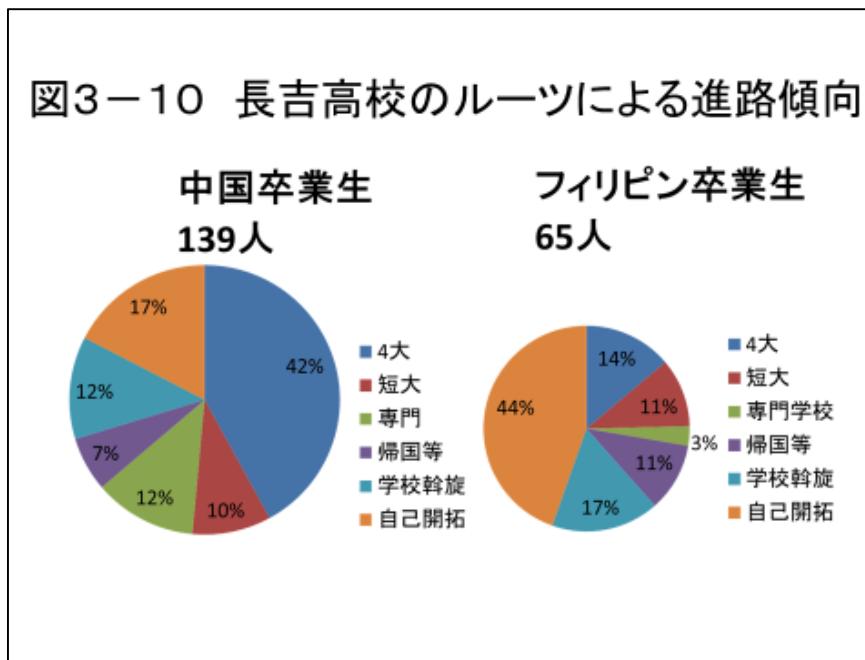
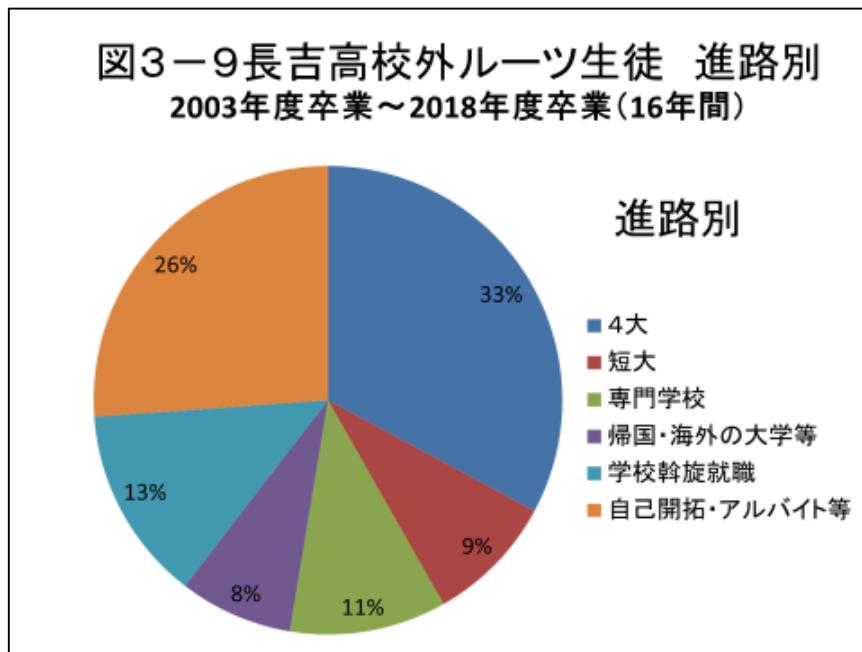


図3-9にあるように4大、短大、専門学校を合わせると50%以上の生徒が日本で進学しております。こうやってみると簡単なようですが、とても大変で時間もかかるのです。毎年多くの先生方が休みも返上してパーソナルポートフォリオの作成を指導したり、つきっきりで小論文を添削したり、まるで、一鍬、一鍬と土を耕すように進路指導を通じて生徒

の可能性を掘り起こしています。枠が始まった2001年より長吉に勤める中国語のニナン教諭は、昨年だけでものべ38回、土日を使って生徒と保護者をオープンキャンパスに引率しています。保護者が日本の大学システムを知らないので通訳しながら教育の重要性を訴え、奨学金の紹介から受験まで細やかに指導しています。

図3-9にある「帰国」というのは、例えばフィリピンの生徒さんで経済的に厳しい生徒さんは、日本の大学では奨学金を借りても続けることがしんどいので国に帰って大学に行ったり、ブラジルの生徒さんの場合はリーマンショックの後に帰国したりしました。また、中国ルーツの日本国籍をもつ生徒さんであれば、中国の有名大学に日本国籍を利用して進学するということもあります。図3-10のようにルーツ別でみると、フィリピンの生徒さんは大体進学するのが4分の1くらい、あとは就職ですが、中国の生徒さんは7%の帰国も大体進学のためなので、あわせると7割ぐらいが進学しています。本校は、枠校7校の中では、ルーツは多様化しており中国の生徒さんの割合が50%弱と低い方なので全体の進学率も帰国をあわせても6割くらいですが、枠生徒のほとんどが中国の生徒さんという学校が7校の中にはあって、そういう学校では、より進学率が高いです。

さらに、進学先を卒業した後も、多くの卒業生が、言語やルーツ、その多様性を活かしながら、日本社会または国際的に活躍しています。大手企業に就職し中国の環境保全に貢献している卒業生や中国系航空会社に就職し新航路の開拓や観光客誘致に携わっている卒業生、また、大阪府の公立高校で教員として採用され教壇に立って活躍しているベトナムの卒業生などもいます。詳しくはあとで、卒業生のOrui Joaoさんにお話ししてもらいます。

日本社会で自立し貢献しているということ以上に、大きな成果だと思っているのが、2番目のネットワークの形成です。外国人やマイノリティーは、同化圧力の強い日本社会では攻撃の対象となったり排除されたりして孤立してしまうことがあります。しかし長吉で学んだ生徒さんは、同じルーツを持った生徒同士だけでなくルーツを超えて本当によくつながっているのです。信頼できる日本人と出会い日本社会の一員として学校という安全安心な居場所を経験している生徒は、卒業後も、誰かにSOSを出せたり、相談したりできる。卒業しても一人ぼっちにならない、孤立しないということです。今はSNSがあるので、母国に帰国した生徒さんや退学した生徒さんともつながっている場合もあります。そういう日本社会の中で孤立しないということはすごく大切な成果だと思っています。（図3-4参照）

3つめは、多文化共生社会の広まり、違いを豊かさにできる社会へということで、日本人、私たちへの影響です。「枠」があることによって入ってきた多様な生徒たちは、周囲を変えていく力をもっていました。自分たちとは違った文化や価値観、生き方があるということを周囲の生徒たちだけでなく、教員にも保護者にも気づかせてくれました。違いがあ

るということは、自然なことですぐに、時によってはその違いが対立や混乱をもたらしたことも幾度とありました。「枠」がない方がラクかもしれません。しかし、「枠」があったからこそ、お互いに新たな可能性をみつけ成長できたと思います。

（図3-4 参照）

図3-11 大阪府「枠校」の課題1

①「枠」の取り組みの継承と広まり

・人材確保・育成

- ネイティブ教員の採用／母語支援者の確保
- 校内コーディネータの育成（管理職の理解）

・大阪府のフレームづくり←

- 「枠」校間の連携
- 小数点在校との連携
- NPO、大学等研究機関との連携

大阪府立学校在日

外国人教育研究会

図3-12 大阪府「枠校」の課題2

②高校における日本語教育の確立

- 日本語の専門家としての教員採用
- ・シラバス・教育法・教材の開発
(漢字圏と非漢字圏)

③法の壁

例)・「家族滞在」:

- 就労不可・日本学生支援機構利用不可
- ・不安定な親の滞在資格→帰国へ

最後に、大阪府「枠校」の課題です。3点あげさせてもらいます。まず一点目は、枠の取り組みの継承と広がりということです。先ほども人材確保、人材の育成ということで文科省の方からお話をありました。先ほどは小中学校中心のお話でしたが、高校に枠校を作るのであれば、ぜひ高校の教員の支援や拡充も応援していただきたいと思います。大阪で

は元々在日朝鮮人教育の現場でもまれた先生方が、枠組の基礎をつくられ、「ニューカマー」生徒の支援も担っておられました。しかし、次々と退職されてしまい世代交代が急務です。二点目は、高校における日本語教育の確立、そして最後に一番厚い壁、法の壁という課題もあります。

一応、時間となりましたので、課題については、私たち現場の力だけではどうにもなりませんので、またこれからもいろんなところでご支援をお願いしたいと思います。以上です。

森山玲子（もりやま れいこ）（大阪府立長吉高等学校）